

# 高等学校における災害に対する 主体的行動への意識調査と教材開発

学籍番号 219318

氏名 寄川 綾香

主指導教員 水野 恵司

副指導教員 峯 明秀

## 1. 背景・目的

学校安全は、多様な児童生徒に対して彼らを取り巻く多岐にわたる危険事象からの保護を対象とする。学校は、児童生徒等が主体性をもって取り組む安全教育を支援し安全な環境を作っていく学校安全が重要である。しかし実際には各学校での学校安全には取組内容や意識の差があることが指摘されている。本研究は、1) 実習校の学校安全に関する取り組みを観察・整理し、高校生の学校管理下での安全教育の特徴を記録に残すこと、2) 日常生活での災害安全知識や意識、避難行動の傾向を調査すること、3) 防災訓練の改善と教材開発を行うこと、4) 地理総合での防災教育授業を実践することを目的とする。

## 2. 調査方法と実践

調査・実施に先立ち、文部科学省による諸指針や先行研究から学校安全の定義、対象範囲、安全教育の方向性を整理した。学校安全を総合的に推進するために危険事象ごとに対応する学校安全取り組みを安全教育、安全管理、関連機関と小中高校とによって整理する一覧表を作成することによって実習校の学校安全の取り組みを評価した。

実習校での災害に対する生徒の意識調査は次の2つの方法で行った。1つ目は全校生徒を対象に地震に関する知識と価値判断アンケートである。2つ目は防災訓練での頭部の保護に関する調査である。地震発生時の落下物から身を守るための意識と実際行動との違いを調査するために、附属小中高校生を対象にアンケートを行った。

防災訓練の改善と教材開発は次の3つの方法で行った。1つ目は緊急時に職員が使用する情報共有ホワイトボードの改良である。実習校の学校安全に関する避難訓練を観察する中で発見した課題点をもとに改良し、再度観察を行った。2つ目は防災訓練で使用する事前・事後学習のパワーポイントと訓練の振り返りアンケートを作成した。「主体的に行動する態度」を育成するために、訓練中の自らの行動を振り返らせ、生徒が訓練からわかった気づきを分析した。3つ目は防災クロスロードゲームを応用した授業実践・振り返りアンケートである。生徒に災害時避難所での非常食使用をめぐる災害時判断の難しい状況を提示し判断させ意見交流させることにより、災害対応を自らの問題として考え、様々な意見や価値観を共有する授業を実施

し、防災意識の変化を記録した。

### 3. 結果と考察

災害に対する意識調査の結果、応正答率に目立った規則性はなく、小・中学校からで習った問題は意識・知識調査に関わらず正答率が高かった。つまり、最も長期間にわたって学習した内容が正答率に結び付いたといえる。一方で用問題が2問とも低い数値となったため柔軟性が求められる問題を解くことが難しいことが明らかになった。

防災訓練での頭部の保護に関する調査では、地震が発生時に頭部を保護することができた割合は、全学年を通して80%を超える高い結果となったが、学齢が上がるると低下傾向にあることが明らかになった。避難行動中に頭部を保護することができた割合でも、学齢が上がるると大きく低下することが明らかになった。小学生は教員の指示のもと避難訓練を行うが学齢が上がるにつれ訓練でも主体性が求められること、避難行動中となると教室にいた時よりも教員の指示が無くなるため頭部の保護を忘れる可能性があることが低下傾向にある原因であることを考察した。

教材開発から、緊急受付ホワイトボードの改良については避難訓練の運営役割分担問わず全教職員へ使い方を共有し、引き続き観察していく必要がある。21年度22年度防災訓練での振り返りアンケートを前年度と比較した結果、「頭部を保護するなど自分の身の安全を確保することができましたか」について、全体としてできたと回答する生徒が増加し、主体的な態度となったことが明らかになった。しかし、避難場所へ向かう際は頭を守りながら行動している生徒は実際には観察できなかった。地震発生時はどの学年の生徒もすぐに机に入る行動だけで身の安全を図れたと判断している。

防災クロスロードゲームを用いた授業実践の振り返りアンケートの結果、生徒同士の意見交換や教員が新たな状況説明をして思考の揺さぶりを加えても振り返り前後の防災対応判断はあまり変化しないことがわかった。変化のある回答としては、第1学年は食料配給の日数や配給の量で意見が変化するという回答が多かった。これは思考の揺さぶりの中でも親友に自分の非常食をあげてもよいという文言から回答数が多くなったのではないかと推測した。変化のない回答としては、自分の命を優先する回答と周囲の環境や状況、他人の反応をうかがうような回答が多かった。第3学年は思考の揺さぶりを設定していないため配給に関する回答が無かったのではないかと考察した。第3学年は振り返りシートで感想が多かったが、これは事前の備えを意見交換の際に他者と共有したためであると考察した。